

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

一般国民のがん統計に関する意識及び理解度調査

研究代表者 松田智大（国研）国立がん研究センターがん対策情報センターがん登録センター 室長
研究分担者 伊藤ゆり 大阪医科大学研究支援センター医療統計室 室長

研究要旨

記述疫学で表現される統計値を、国民が必ずしも理解しているとは限らず、場合によっては伝達方法を工夫する必要がある。記述疫学的表現で提示されるがん統計の国民の理解度を把握し、属性との関係を分析することを目的とした。

インターネット上でのオンライン回答を促す、ネットリサーチの方法をとった。調査対象者は、最新の国勢調査の全国比率に合わせた性、年齢、都道府県別に抽出した 20 歳以上の男女に依頼をかけ、最終的な有効回答数は 10,477 であった

回答者は、どの性別や年齢層を見てもがん統計に触れる頻度が多くなく、また統計値への信頼も必ずしもない。がん罹患の経験があつて初めて情報収集をし、また、情報を吟味して信頼度を高めることも見て取れる。

研究者が日常示すがん統計値の有用性の認識や、理解度もおしなべて高くなく、がん罹患経験のない国民に、予防や早期発見の情報を統計値をもって伝えることの難しさが露呈した。統計値への信頼を得た上で、よりわかりやすい表現方法での提供が必要である。

A. 研究目的

わが国においても、医療統計の整備が進んでおり、IT 技術の進歩と相まって、信頼性の高い情報を国民が入手しやすい環境が整った。しかしながら、記述疫学で表現される統計値を、国民が必ずしも理解しているとは限らず、場合によっては伝達方法を工夫する必要がある。記述疫学的表現で提示されるがん統計の国民の理解度を把握し、属性との関係を分析することで、今後の資料とすることを本研究の目的とした。

B. 研究方法

1. データ収集

調査期間は 2019 年 3 月で、調査方法としては、株式会社インテージの保有するパネルを対象に、インターネット上でのオンライン回答を促す、ネットリサーチの方法をとった。

調査対象者は、最新の国勢調査の全国比率に合わせた性、年齢、都道府県別に抽出した 20 歳以上の男女に依頼をかけ、有効回答が 10,000 人に達した段階で調査を完了した。最終的な有効回答数は 10,477 であった。

質問数は、15 問であり、回答者が、モニター登録の際に既に登録している年齢、性別、居住地、婚姻状況、職業、同居子供人数、世帯税込年収については、登録情報から入

手した。

2. 匿名性の確保

回答は、システム上で匿名化処理され、インターネット社のアンケート担当者も顕名情報に触れていない。また、回答結果に関して、社の基準に則して匿名性チェックを実施し、特に Q12 ご家族にがん患者がいるか否かと、Q13 ご本人ががんにかかっているか否かの設問を中心に、個人が特定できる結果になっていないかどうかのチェック作業（特定の県の特定の年齢のみに存在しないか、等）を行い、個人特定性がないことを確認した。

C. 研究結果

1. 回答者の属性

回答者の属性について、表 1 に示す。男女比はほぼ同数で 48.2 : 51.8 であった。家族ががんに罹ったことがある割合は 48.5%、自身ががんに罹ったことがある割合は 6.5% であった。年齢層は、60 代以上が 4 割強を占めていた。2015 年国勢調査では、20~99 歳の人口の割合は、20-29 : 11.9%、30-39 歳 : 13.9%、40-49 歳 : 14.9%、50-59 歳 : 14.9%、60-99 歳 : 40.4% であった。

属性項目間の関係では、女性の方が有意に高齢であり、既婚者の割合が多く、本人及び家族のがん経験が多かった。また、年齢や職業と世帯収入の関連も見られた。

2. 単項目集計

がんに関する統計をよく見る又は時々見る、と回答していたものの割合は、51.2% であった。

各メディアの信頼性は、自治体、病院、研究所、学校等からの情報や配布物が最も高

く、非常に信頼していると、ある程度信頼しているを足したものが 70.3% であり、次いで新聞の記事 (64.1%)、テレビ・ラジオのニュース (61.2%)、であった。テレビ・ラジオのバラエティ番組、インターネットのサイト、口コミへの信頼は、4 割を切っていた。

疫学で使われる表現、標準化罹患比、相対危険度、相対生存率については、標準化罹患比の理解度があまり高くなく、また有用性も感じられていなかったが、相対危険度と相対生存率は、6 割を越える回答者が、理解しやすく、有用性も低いと考えていた。

3. 項目間集計

がん統計に触れる機会に関する質問では、約半数が、よく見る又は時々見ると回答しており、触れる機会は、がんの経験者、女性、高齢者において多かった (図 1)。

TV やラジオのニュースでのがん統計の信頼性は 6 割程度が、非常に信頼している又はある程度信頼している、としており、触れる機会と比例して、がんの経験者、女性、高齢者において信頼が厚かった (図 2)。

また、こうした統計の理解しやすさの認識では、がんの経験者及び若年層がより理解しやすいと感じていた (図 3)。

4. 統計表現の理解度

実際に、記述疫学で示される数値の理解を確認する問いにおいては、正答は、罹患数の設問が 34.8%、罹患の部位別順位が 54.8%、年齢階級別罹患数は 53.5% であった。

がんの経験者、男性、高齢者において有意に正答率が高かった。

D. 考察

パネルとして登録している者を対象にしたネットリサーチであり、また予定数が充足された段階で締め切るために回答率の算出もできないので、回答者の代表性は担保できない。しかしながら、国勢調査に合わせた年齢層別の抽出、回答規模の大きさから、住民基本台帳等を利用した従来の方法と比較して、どの方法が国民の意識を把握するのに最適かは、判断できない。

回答者は、どの性別や年齢層を見てもがん統計に触れる頻度が多くなく、また統計値への信頼も必ずしもない。がん罹患の経験があつて初めて情報収集をし、また、情報を吟味して信頼度を高めることも見て取れる。

性別や年齢、がん罹患経験で差はあるものの、研究者が日常示すがん統計値の有用性の認識や、理解度もおしなべて高くなく、がん罹患経験のない国民に、予防や早期発見の情報を統計値をもって伝えることの難しさが露呈した。

統計値への信頼を得た上で、よりわかりやすい表現方法での提供が必要である。

E. 結論

インターネットリサーチの結果、回答者は、どの性別や年齢層を見てもがん統計に触れる頻度が多くなく、また統計値への信頼も必ずしもない。統計値の理解も十分でないことから、統計値への信頼を得た上で、よりわかりやすい表現方法での提供が必要である。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載する

G. 研究発表

論文発表

なし

学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

表 1 回答者属性

Sex	n	%
Male	5,048	48.2
Female	5,429	51.8
<hr/>		
Experience of cancer (family)		
Yes	5,084	48.5
No	4,882	46.6
Do not want to answer	511	4.9
<hr/>		
Experience of cancer (self)		
Yes	681	6.5
No	9,406	89.8
Do not want to answer	390	3.7
<hr/>		
Age group		
20-29	1,141	10.9
30-39	1,453	13.9
40-49	1,901	18.1
50-59	1,639	15.6
60-99	4,343	41.5
<hr/>		
Residential Area		
Hokkaido and Tohoku	1,204	11.5
Kanto	3,598	34.3
Chubu	1,763	16.8
Kinki	1,834	17.5
Chugoku and Shikoku	913	8.7
Kyushu and Okinawa	1,165	11.1
<hr/>		
Profession		
Office worker	1,317	12.6
Public officer	1,450	13.8
Self-employed	3,261	31.1
Part time worker	1,933	18.5
Student	2,309	22.0
Unemployed	207	2.0
Others		
<hr/>		
Household Income (thousand yen)		
-3000	2,767	26.4
3000-6000	4,359	41.6
6000-9000	1,958	18.7
10000-	1,393	13.3
<hr/>		
Marital status		
Married	7,047	67.3
Non married	3,430	32.7
<hr/>		
No. of children		
0	6,859	65.5
1	2,026	19.3
2	1,303	12.4
3	253	2.4
4-	36	0.3

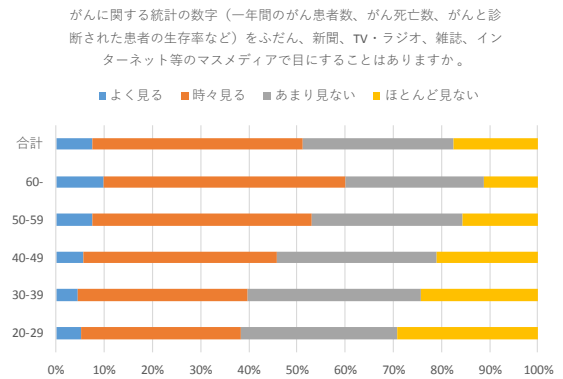
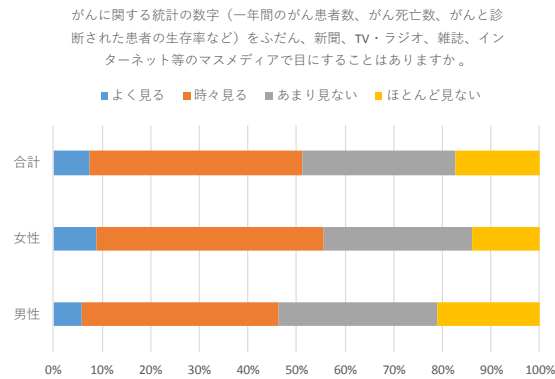
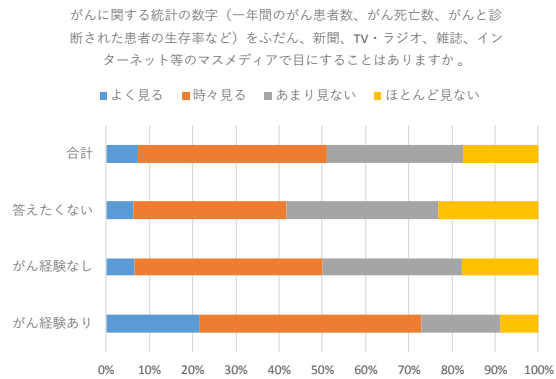


図 1. がんに関する統計値に触れる頻度

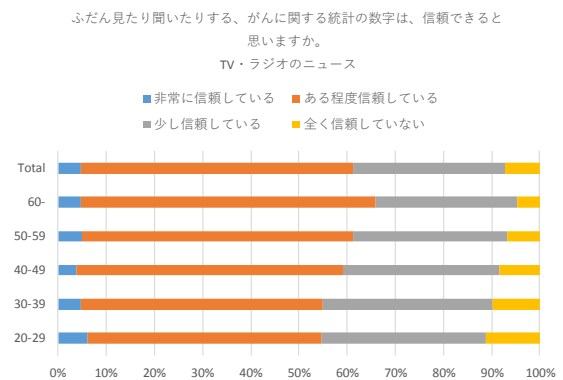
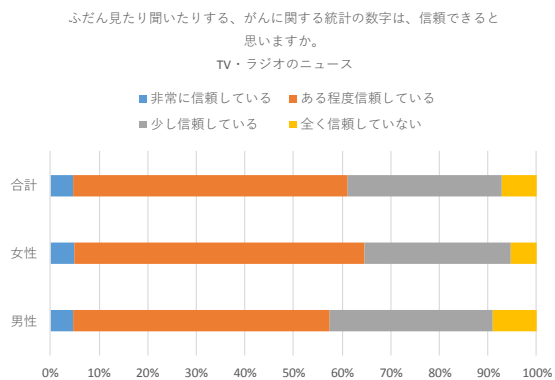
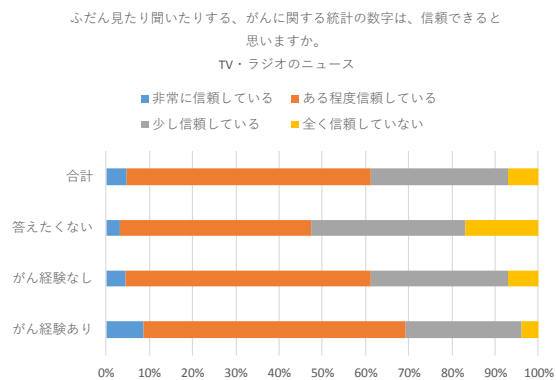
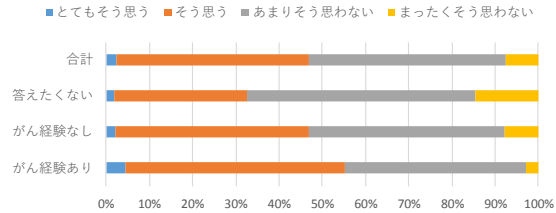
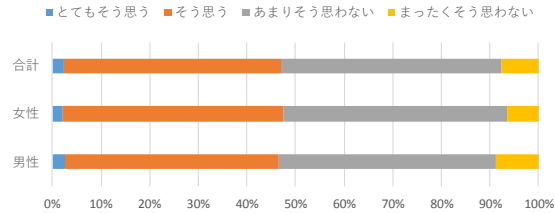


図 2. 統計値への信頼

あなたが住む地域でがんにかかる人が多いか少ないかを表すために、全国平均を1とすると、実際にがんにかかる人が何倍多くいるかを表す数字（標準化罹患比と呼びます）が用いられます。この数字について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。
 (例) 東北地方の胃がんの標準化罹患比は、男女合わせておよそ1.2です



あなたが住む地域でがんにかかる人が多いか少ないかを表すために、全国平均を1とすると、実際にがんにかかる人が何倍多くいるかを表す数字（標準化罹患比と呼びます）が用いられます。この数字について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。
 (例) 東北地方の胃がんの標準化罹患比は、男女合わせておよそ1.2です



あなたが住む地域でがんにかかる人が多いか少ないかを表すために、全国平均を1とすると、実際にがんにかかる人が何倍多くいるかを表す数字（標準化罹患比と呼びます）が用いられます。この数字について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。
 (例) 東北地方の胃がんの標準化罹患比は、男女合わせておよそ1.2です

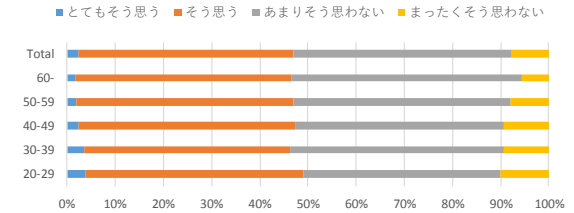
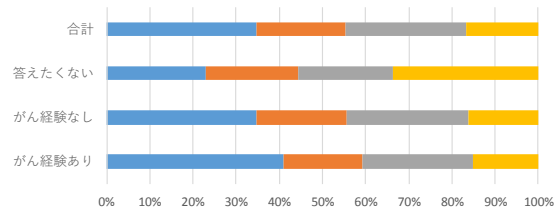


図3. 標準化罹患比の分かりやすさ

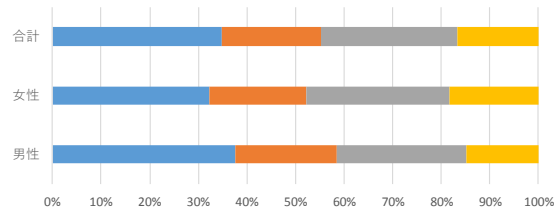
「2016年には国内で1年間にがんと診断された人は99万5132人で、性別には男性56万6575人、女性42万8499人でした。」このデータの説明や解釈として誤っているものはどれでしょうか。

- 日本にいるがん患者さんの人数の合計はおよそ100万人である
- 男性のほうが女性よりがんにかかりやすい
- 毎年新たにがんにかかる人の数はおよそ100万人である
- 日本の人口のおよそ0.8% (100万/1億2千万) が一年間にがんにかかる



「2016年には国内で1年間にがんと診断された人は99万5132人で、性別には男性56万6575人、女性42万8499人でした。」このデータの説明や解釈として誤っているものはどれでしょうか。

- 日本にいるがん患者さんの人数の合計はおよそ100万人である
- 男性のほうが女性よりがんにかかりやすい
- 毎年新たにがんにかかる人の数はおよそ100万人である
- 日本の人口のおよそ0.8% (100万/1億2千万) が一年間にがんにかかる



「2016年には国内で1年間にがんと診断された人は99万5132人で、性別には男性56万6575人、女性42万8499人でした。」このデータの説明や解釈として誤っているものはどれでしょうか。

- 日本にいるがん患者さんの人数の合計はおよそ100万人である
- 男性のほうが女性よりがんにかかりやすい
- 毎年新たにがんにかかる人の数はおよそ100万人である
- 日本の人口のおよそ0.8% (100万/1億2千万) が一年間にがんにかかる

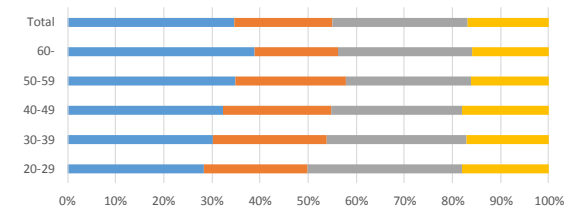


図4. 罹患数の理解

添付 1. アンケートの説明

ご自身に関するアンケート

今回の調査は厚生労働省からの依頼により、TVや新聞、週刊誌、インターネット等のマスメディアで目にする「がん統計」が、皆様にどれほど理解されているかを把握することを目的として実施するものです。

がん統計は、がん登録によるデータベースから、がんの罹患（がんにかかること）、患者さんの予後その他の状況を把握・分析し、罹患率（がんにかかる確率）や生存率（がんが治る確率）など、がん対策の企画や評価のための基礎情報として算出された結果です。がん患者さんを含めた国民の皆様に適切ながん医療を提供するために、必要なものです。

質問の中に、あなた様もしくはご家族の方への「がん」、「最終学歴」に関する立ち入った質問などもありますが、お答えいただける範囲でご協力くださいますと幸いです。また、アンケートの回答はすべて個人が特定できないよう処理したうえで使用させていただきます。

アンケートであなたご自身やあなたのご家族についてお伺いする場合があります。

アンケートにアクセスいただき、ありがとうございます。

ご協力いただける場合は「開始」ボタンを押し、回答を開始してください。

[開始 (ボタン)]

回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。

添付 2. アンケートの内容

Q1 がんに関する統計の数字（一年間のがん患者数、がん死亡数、がんと診断された患者の生存率など）をふだん、新聞、TV・ラジオ、雑誌、インターネット等のマスメディアで目にすることはありますか。

- 1 よく見る
- 2 時々見る
- 3 あまり見ない
- 4 ほとんど見ない

Q2 Q2 ふだん見たり聞いたりする、がんに関する統計の数字は、信頼できると思いますか。

Q2_1 TV・ラジオのニュース

- 1 非常に信頼している
- 2 ある程度信頼している
- 3 少し信頼している
- 4 全く信頼していない

Q2_2 TV・ラジオのバラエティ番組

- 1 非常に信頼している
- 2 ある程度信頼している
- 3 少し信頼している
- 4 全く信頼していない

Q2_3 新聞の記事

- 1 非常に信頼している
- 2 ある程度信頼している
- 3 少し信頼している
- 4 全く信頼していない

Q2_4 週刊誌の記事

- 1 非常に信頼している
- 2 ある程度信頼している
- 3 少し信頼している
- 4 全く信頼していない

Q2_5 インターネットのサイト

- 1 非常に信頼している
- 2 ある程度信頼している
- 3 少し信頼している
- 4 全く信頼していない

Q2_6 個人のブログや家族や友人からの口コミ

- 1 非常に信頼している
- 2 ある程度信頼している
- 3 少し信頼している
- 4 全く信頼していない

Q2_7 自治体、病院、研究所、学校等からの情報や配布物

- 1 非常に信頼している
- 2 ある程度信頼している
- 3 少し信頼している
- 4 全く信頼していない

Q3 わが国には、漏えい防止のための厳重な個人情報の管理のもと、がん患者さんの医療情報データを集める仕組みである全国がん登録（制度）があります。あなたは、今までに、この全国がん登録（制度）を聞いたことがありますか。

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 わからない

Q4 あなたが住む地域でがんにかかる人が多いか少ないかを表すために、全国平均を1とすると、実際がんにかかる人が何倍多くいるかを表す数字（標準化罹患比と呼びます）が用いられます。この数字について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。（例）東北地方の胃がんの標準化罹患比は、男女合わせておよそ1.2です。

Q4_1 あなたの地域に住む人のがんのかかりやすさを理解しやすい数字である

- 1 とてもそう思う
- 2 そう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 まったくそう思わない

Q4_2 自分のがんに注意して生活を送る上で役立つ数字である

- 1 とてもそう思う
- 2 そう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 まったくそう思わない

Q4_3 あなたの地域の自分以外の方ががんに注意して生活を送る上で役立つ数字である

- 1 とてもそう思う
- 2 そう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 まったくそう思わない

Q4_4 あなたの地域社会で取り組むがん対策に役立つ数字である

- 1 とてもそう思う
- 2 そう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 まったくそう思わない

Q5 がんにかかることに影響を与える要因が、その要因がないことに比べて、がんにかかる可能性が何倍高くなるかを表す数字（相対危険と呼びます）で、影響の強さを表します。この数字についてのあなたの考えに最も近いものを選んでください。（例）たばこを吸っている人のたばこを吸ったことがない人に対するがん全般の相対危険は1.53になります。

Q5_1 一般の人がその要因とがんにかかりやすさの関係を理解しやすい数字である

- 1 とてもそう思う
- 2 そう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 まったくそう思わない

Q5_2 自分ががんにかからないように注意して生活する上で役立つ数字である

- 1 とてもそう思う
- 2 そう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 まったくそう思わない

Q5_3 自分以外の方ががんにかからないように注意して生活する上で役立つ数字である

- 1 とてもそう思う
- 2 そう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 まったくそう思わない

Q5_4 社会全体で取り組むがんの予防の活動に役立つ数字である

- 1 とてもそう思う
- 2 そう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 まったくそう思わない

Q6 がんと診断された人の○年目の経過は、同じ年齢・性別の一般的な人の生存率を100%にするときにどれくらいの水準にあるかを表す数字（相対生存率と呼びます）で表します。この数字についてのあなたの考えに最も近いものを選んでください。（例）2006年から2008年にがんと診断された人の5年相対生存率は男女計で62.1%（男性59.1%、女性66.0%）でした。

Q6_1 がん患者さんの経過を理解しやすい数字である

- 1 とてもそう思う
- 2 そう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 まったくそう思わない

Q6_2 自分のがんと診断された後の生活を考える上で役立つ数字である

- 1 とてもそう思う
- 2 そう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 まったくそう思わない

Q6_3 自分以外の人のがんと診断された後の生活を考える上で役立つ数字である

- 1 とてもそう思う
- 2 そう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 まったくそう思わない

Q6_4 社会全体で取り組むがんの医療の充実に役立つ数字である

- 1 とてもそう思う
- 2 そう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 まったくそう思わない

Q7 「2016年には国内で1年間にがんと診断された人は99万5132人で、性別には男性56万6575人、女性42万8499人でした。」このデータの説明や解釈として誤っているものはどれでしょうか。

- 1 日本にいるがん患者さんの人数の合計はおよそ100万人である
- 2 男性の方が女性よりがんにかかりやすい
- 3 毎年新たにがんにかかる人の数はおよそ100万人である
- 4 日本の人口のおよそ0.8%（100万/1億2千万）が一年間にがんにかかる

Q8 この表の説明や解釈として誤っているものはどれでしょうか。2014年の日本のがん罹患数が多かった上位5部位を、性別に表に示します。

- 1 男性は胃がんや肺がんにかかりやすい
- 2 男女とも、胃がん、肺がん、大腸がんが多い
- 3 表にある5つの部位ではがんにかかる人が増加している
- 4 男性と女性でかかりやすいがんの部位が異なる

Q9 このグラフの説明や解釈として誤っているものはどれでしょうか。下のグラフは、年齢ごとのがん罹患率（発生するリスク）を男性と女性に分けて示しています。

- 1 男性でも女性でも年齢が高い人ほどがんにかかりやすい
- 2 20歳代の人のがんにかかることはまれである

- 3 40歳代の方ががんにかかる割合は男性より女性の方が高い
- 4 日本にいる85歳以上の男性がん患者さんの人数はおよそ4000人である
- Q10 一生のうちで何らかのがんにかかる確率は、どれくらいだと思いますか。
- 1 2人に1人（およそ50%）
 - 2 5人に1人（およそ20%）
 - 3 10人に1人（およそ10%）
 - 4 100人に1人（およそ1%）
- Q11 あなたの最終学歴を教えてください。
- 1 中学（旧小学校）
 - 2 高校（旧中学・女学校）
 - 3 短大（専門学校・高専）
 - 4 大学、大学院
- Q12 あなたの家族（両親、兄弟姉妹、配偶者、子ども）の中で、がんになった方はいますか。 ※あなた自身のことは含まないでお答えください。ここからの質問は立ち入った質問でございますが、どうぞ本調査の趣旨をご理解いただき、お答えくださいますようお願いいたします。
- 1 はい
 - 2 いいえ
 - 3 わからない／答えたくない
- Q13 あなたはがんにかかっていますか。（または、今までに、がんにかかったことがありますか。）
- 1 はい
 - 2 いいえ
 - 3 わからない／答えたくない
- Q14 あなたの性別をお答えください。
- 1 男性
 - 2 女性
- Q15 あなたの年齢をお答えください。
- QW3 [属性] 県コード
- 1 北海道
 - 2 青森県
 - 3 岩手県
 - 4 宮城県
 - 5 秋田県
 - 6 山形県
 - 7 福島県

- 8 茨城県
- 9 栃木県
- 10 群馬県
- 11 埼玉県
- 12 千葉県
- 13 東京都
- 14 神奈川県
- 15 新潟県
- 16 富山県
- 17 石川県
- 18 福井県
- 19 山梨県
- 20 長野県
- 21 岐阜県
- 22 静岡県
- 23 愛知県
- 24 三重県
- 25 滋賀県
- 26 京都府
- 27 大阪府
- 28 兵庫県
- 29 奈良県
- 30 和歌山県
- 31 鳥取県
- 32 島根県
- 33 岡山県
- 34 広島県
- 35 山口県
- 36 徳島県
- 37 香川県
- 38 愛媛県
- 39 高知県
- 40 福岡県
- 41 佐賀県
- 42 長崎県
- 43 熊本県

- 44 大分県
- 45 宮崎県
- 46 鹿児島県
- 47 沖縄県
- QW4 [属性] 未既婚
 - 1 結婚している
 - 2 結婚していない
- QW5 [属性] 職業
 - 1 会社員
 - 2 会社役員・管理職
 - 3 公務員・団体職員
 - 4 自営業
 - 5 自由業・専門職
 - 6 派遣・契約社員
 - 7 パート・アルバイト
 - 8 小学生以下
 - 9 中学生
 - 10 高校生
 - 11 予備校生
 - 12 専門学校生・短期大学生・大学生・大学院生
 - 13 専業主婦・専業主夫
 - 14 無職
 - 15 その他
- QW6 [属性] 同居子供人数
 - 1 0人
 - 2 1人
 - 3 2人
 - 4 3人
 - 5 4人以上
- QW15 [属性] 世帯税込年収
 - 1 100万円未満
 - 2 200万円未満
 - 3 300万円未満
 - 4 400万円未満
 - 5 500万円未満
 - 6 600万円未満

- 7 700 万円未満
- 8 800 万円未満
- 9 900 万円未満
- 10 1000 万円未満
- 11 1200 万円未満
- 12 1500 万円未満
- 13 2000 万円未満
- 14 2000 万円以上
- 15 分からない
- 16 答えたくない

QAGE *年代

- 1 20-29 歳
- 2 30-39 歳
- 3 40-49 歳
- 4 50-59 歳
- 5 60-99 歳

QSAGE *性年代

- 1 男性 20-29 歳
- 2 男性 30-39 歳
- 3 男性 40-49 歳
- 4 男性 50-59 歳
- 5 男性 60-99 歳
- 6 女性 20-29 歳
- 7 女性 30-39 歳
- 8 女性 40-49 歳
- 9 女性 50-59 歳
- 10 女性 60-99 歳

QAREA *エリア

- 1 北海道・東北
- 2 関東
- 3 中部
- 4 近畿
- 5 中国・四国
- 6 九州・沖縄